
おちてきました。

メープルシロップ味

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おちてきました。

【Nコード】

N2737S

【作者名】

メーブルシロップ味

【あらすじ】

ごく普通の現代、ごく普通の家庭、ごく普通の生活。

そんな中、ごく普通に育ってきた俺は、今日、好きな女の子に告りました！んで、ふられてしまったわけですが、帰宅してベットで寝ようとしたとたん、何かがおちてきたんですよっ？！

えええええ？！すっごいきれいな女の子じゃんかっ！これはいろいろ期待しちゃうぞ？！・・・でも俺は、すぐにその考えを改めることになるのですorz

王道なんかクソ食らえラブコメ（嘘）ファンタジー。

おちてきた

「す、好きです・・・!」

「・・・ごめん」

・・・がーんorz

去っていくあの子。

誰にでも優しく、俺とも仲良くて、す・・・好きになって、がんばって告ったのに、・・・うん。覚悟はしてたさ。別に悲しくなれないさ。明日、また学校で会ったとき、いつもどおりに振舞えるよう今日は帰って・・・帰って寝よう。それがいい・・・。

「さ、さびしい奴とか思ってくれてもいいからなっ!! ただいま!」

家に帰ってただいまと言っても、今日は誰の返事も返ってこない。

それもそのはず、昨日今日明日、父さんは出張で、姉ちゃんは部活の大会で明日まで他県にいつてるし、母さんは今晚仕事で遅くなるって聞いてたし。

ひとり暮らしと期待した奴ら・・・ツフwww

「みゃーおう!」

「おっと、わりいタマ。おまえがいたな」

「みゃー! ゴロゴロゴロゴロ」

「タマーっ、タマーッ! おまえはかわいいなあ、かわいい!! たまあ、たまちゃあん!」

4、今はいつだ？夜の8時くらいだ。愛猫のタマはベットからおりてしまった。残念。

5、本題。苦しいのはなぜ？誰かが俺の上に馬乗りになってるから・・・え？

「・・・え？あの、ど、ど、どな、た？」

「・・・ねむい」

「え？」

「ZZZ・・・」

「・・・あのー・・・」

って、寝るなあああああああああああああああああ！！

* * * * *

食器がカチャカチャなる。

目の前の美少女は、ものすごい勢いで適当に作った夕飯をたいらげていった。

スプーンとフォークで起用に野菜炒めや玉子焼きを口に運ぶ。

やべえ・・・手え出したら咬まれそうな雰囲気なんですけど。

・・・怖い、ことはないけど、なんなんだこの人は・・・。

少し前、俺の上に落ちてきたこの美少女は、揺り起こした俺に不機嫌そうに言った。

「・・・お腹すいた。おい、何か食わせろ」

うん。威厳というかなんと言うか、従わないといけないような気

がしたから、ご飯一緒に食べるくらいいいかなと思ったんだ。びびったわけじゃ・・・びびったわけじゃあないんだよ。

怖くなんかなかったからな！！勘違いすんなよ！！

しかし、ごはんガツガツ食ってるとはいえ綺麗な人だな。長い黒髪に海みたいな大きな青い瞳、カチューシャ？いや、これはティアラっていうんだろ。ティアラに真っ白でフリフリのドレスとか、よく見たら似合ってるんだろうな。

・・・コスプレイヤーさんかな？いきなり来て何しに来たんだろ。歳も同じくらいに見えるし、姉ちゃんの友達かな？

でも、普通こんなにきれいな青い目してる人いないよな。髪も普通こんなに伸ばさないだろうし・・・かつら？だったら少なからず幻滅するな。

まさか、よくある異世界からの来訪者の人だったりして。どっかの国のお姫様がいろいろあってこの世界に飛ばされて来ちゃいました的な。

少女は俺に茶碗を突き出した。

「おかわり」

「あ、はいはい」

「・・・食わないならお前の分ももらっていいか？」

「ほしいんですか・・・？」

少し遠慮がちにそう申し出た少女は、少し迷った後こくりと頷いた。

・・・うん。かわいい。

「いいですよ」

「本当か?!」

「ええ。今日食欲ないんで」

「そうか、感謝する」

遠慮がちに皿を引き寄せた彼女は、おかわりしたご飯と一緒にぺろりとたいらげた。

ふゝ、と満腹げに息をついて、彼女は目を細めた。

「ありがとう。おまえ、料理うまいな」

「そうですか？普通ですよ」

「この白い粒々はなんだ？初めて食べたぞ」

え？お米知らないのか？外人さん？え、でも日本語ペラペラだし・
・・？

「野菜炒め？この味はなんだ？」

「しょ、しょうゆですけど・・・」

「シヨウユ？そんなものがあるのか。城ではこんな味でなかったぞ」

ええええええええ？！しょうゆを知らないだとおおおおおお
おお？！

というか、今城って聞こえたんですけど?!気のせいだよね?!

あれ？そういえば、この人なんて名前だろう？

「すみません。そういえば、お・・・僕たちお互いに名乗ってなかったですよ？僕の名前は藍木かなるです。あなたは姉の友人でしょうか？名前はなんて言うんですか？」

「アオキカナル？それがおまえの名前か？カナルと呼ばせてもらう」
「は、はあ・・・」

ちよつと発音というかイントネーションというか、違う、けどいつか。

「私の名前はミリネア・フォン・ユールフストーラ。ユールフストーラ帝国の第2王女だ」

・・・は？

「これからしばらく居候させてもらうことにした。これからよろしくな、カナル！」

・・・は？

つづく

おちてきた（後書き）

主人公の名前は使い回しです（笑）

王道な話を読んでいたら王道に飽きたので王道じゃない奴読みたくなつたので作っちゃいました。一応物語の流れは考えてあるので自分の間つづく予定ではありません。

あ、でも私高校生になつたので結構時間なくて更新遅いかもです。ま、いつもですけど。一ヶ月に一回とかまだいいほうですよ（氏
それではノシ

あれ？（前書き）

王道が好きだという方はきつい（？）回になりそうです。ご注意くださいw

主人公は王道が嫌いなほうです。

ありえねー、とかうわあー、とか思った方は見ないほうがいいのかもです↑

とかいっても、けっこうありがちな展開になりそうです。

あれ？

「だから、私はユールフストーラの」

「ちよいちよいちよいまち、じゃなくて、待つてください」

この人、頭おかし・・・じゃなくて、役になりきってるっていうか・・・うーん、これが電波って人？

「ここはゆるふすとーら？なんて国じゃありませんよ？」

「だろうな。それくらいわかるぞ。で、なんという国なのだ？」

「あー、日本です」

「ふーん。それで、ここはどんな世界なのだ？」

「えーと、たくさんの国があつて、ネットで、自宅から世界中と交流できて、車とか高層ビルとかたくさんあつて、ネコかわいくて・・・」

いきなり自分の世界を説明しろっていわれてもな・・・困る。

「・・・とにかく、自分で言うのもアレですがすごい世界です」

「ほーう」

「ついでに、念のためにいつときますけど、この世界には魔法とかそっち系のモノは存在しません。剣で戦う人も殆どいないに等しいし、この日本は平和で戦争もしないんです」

「なんと?! そうなのか。平和なのは羨ましいが、魔法が使えないのは不便だな」

「・・・信じるんですか？」

「ここは私の居た世界ではないのだ。信じずにどうしろというのだ？」

ませんが、今回はホテルにでも行ってください」

ひどいと思うか？いいよ、思ってる思ってる。

だがこれが普通の反応じゃないか？

俺はどこそこのマンがやアニメ、小説のように、一人暮らしでもなんでもない。普通の家庭で普通に育ってきたんだ。こんな・・・うん、まあすつごく綺麗な人だけど異世界から来たとか言ってる怪しい人を泊めようと思えない。第一、第一なあ・・・

俺はこういう展開大っ嫌いなんだあああああああああああああ
 ああああああああああああああああああああああああああ
 あああああああああああああ！！！！！！！！！！！！
 このアニメだよ、マンガだよ、小説だよ？！？！？！？！

嫌だ嫌だ、いろいろ受け入れたくない！！

まだ俺が『異世界に召喚されて世界を救う勇者になっちゃいました』的なものじゃなくて良かったよ。王道は嫌いなんだよ！！嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ！！

落ちてきたのが異世界の普通の家庭の人なら考えなくても良かった。だが落ちてきたのは王女様だ！！絶対なんか厄介ごとに巻き込まれる！！ような気がする！！

「……そうか、なら仕方ない」

⌈
^
?
⌋

え？ドユコト？

彼女は俺が断ったときから無表情だった。が、今度はなぜかドヤ顔で言い出した。

「私がいては困るの？それはちゃんと理解した」

「は、はあ……」

「世話になつたな。ホテルとはこの世界でも宿屋のことを指すのか？」

「え、ええ、まあ」

「そうか。すまないが、ここから一番近い宿屋はどこか教えてくれないか？」

そういえば、異世界から来たとか言ってるのに、なんで言葉が通じるんだ？

それもあるが、この近くにそんな人を泊めるような場所あったらどうか？第一、こんな時間（今は夜の１０時になろうとしている）に開いてるのか？お金は？

・ ・ ・ うあああああああああつ、心配事とか多すぎる

「お金はないが、馬小屋でも借りることにする」

このご時世に馬小屋なんて少なくとも日本のホテルに置いてねえ
ええええええええええ！！！！！！

「どうした？わからないなら自分で探すが……」

[illegible]

. . . ウ嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼ア嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼
嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼
嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼嗚呼
あああああああああああああああああ

あああああああああああああああ！！！！！！！！！

「………今晚は泊まつ「おいカナル？出口はここか？」」

心の中の何かと戦っていたら、いつの間にかミリネアさんの姿はなかった。

「ミリネアさん？」

「こっちだ」

声のする方へ行くと、そこは玄関だった。

落ちてきたときに履いていたので、脱がせてここに置いていたヒールの高い青色の綺麗な靴をはいている。

「室内で靴を履く文化がないんだっとな。カナル、夕食ありがとう。」

「あ、あの、今日は――」

俺の話を見聞かず、彼女はノブに手をかけた。

・
・
・
聞けよ！！

言い終わる前にドアが開いた。

「――あら？」

$$\begin{matrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \wedge \\ ? \end{matrix}$$

「……母さん？」

う
う
う
う

あれ？（後書き）

2000字を目安にしようかと思う今日この頃（知らん

いやゝ、桜きれいですう！！と思ったらもう葉っぱが混じり始めましたねwwwはやいなあ、もうwww

春休み終わっちゃいましたorz

それはともかく、前回に引き続きいろいろと問題ありなのですが、それが私のかく小説でs（氏
それであゝノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2737s/>

おちてきました。

2011年10月8日07時52分発行